

# 東通原子力発電所における 建設工事等の状況について

---

2026年2月25日

東京電力ホールディングス株式会社



## 目次

### < 1. 東通原子力発電所の状況 >

1. 東通原子力発電所の概要 …… 1

<参考> 発電所建設エリア現場状況 …… 2

1-1. 東通1号機 運転開始までの主な工程 …… 3

### < 2. 青森行動計画の取り組み状況 >

2. 青森行動計画 …… 4

2-1. 安全性の追求／原子力事業の推進 …… 5-6

## 1. 東通原子力発電所の概要

- ABWR（改良型沸騰水型軽水炉）2基の建設を計画
- 1号機は、原子炉設置許可等を取得し2011年1月に着工したものの、福島第一原子力発電所事故以降、建設工事を見合わせ
- 工事再開のためには、新規規制基準に基づく認可が必要。その申請に向け、敷地内で地質調査を実施し各種データの拡充等を図り、新たな基準に適合する設計検討等を実施中
- 並行して、敷地内の造成などの周辺整備作業を実施

### 東通原子力発電所立地経緯

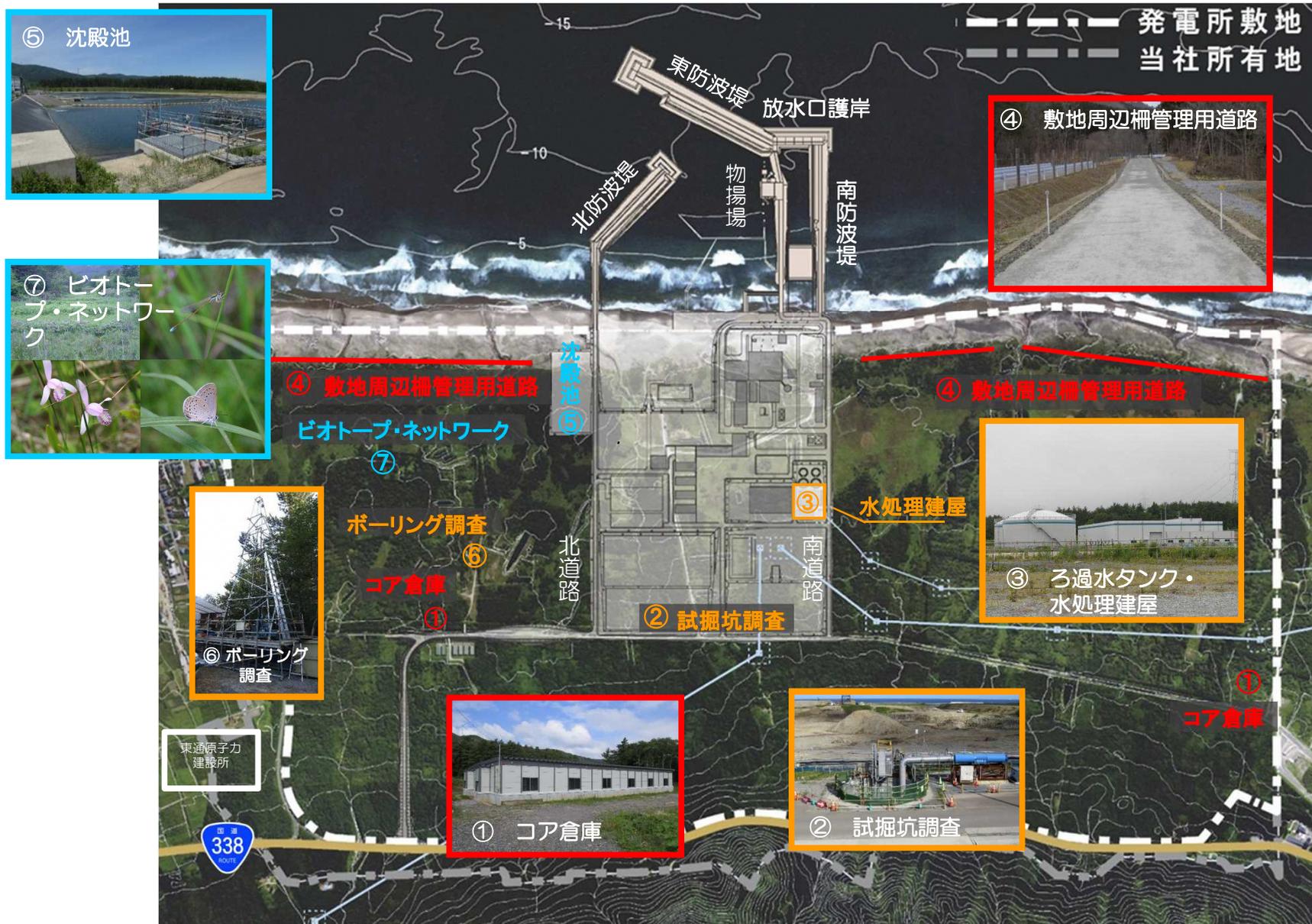
昭和40年5月 (1965年)	東通村議会、原子力発電所誘致決議
昭和56年12月 (1981年)	第一次開発計画発表 (東北・東京それぞれ110万kW×2基)
平成11年3月 (1999年)	東京1・2号機 ABWR導入に伴う東通村、青森県への説明
平成18年9月 (2006年)	東京1・2号機 重要電源開発地点指定
平成22年12月 (2010年)	東京1号機 原子炉設置許可
平成23年1月 (2011年)	東京1号機 着工 (工事計画第一回認可)
平成23年3月 (2011年)	東日本大震災の影響を受け、1号機の工事を中断

### 発電所概要

	1号機	2号機
建設地	青森県下北郡東通村小田野沢	
敷地面積	約4.5km <sup>2</sup> （東京ドーム約100個分）	
電気出力	138万5千kW×2基	
炉型	改良型沸騰水型軽水炉（ABWR）	
着工	2011年1月	未定
営業運転開始*	未定	未定

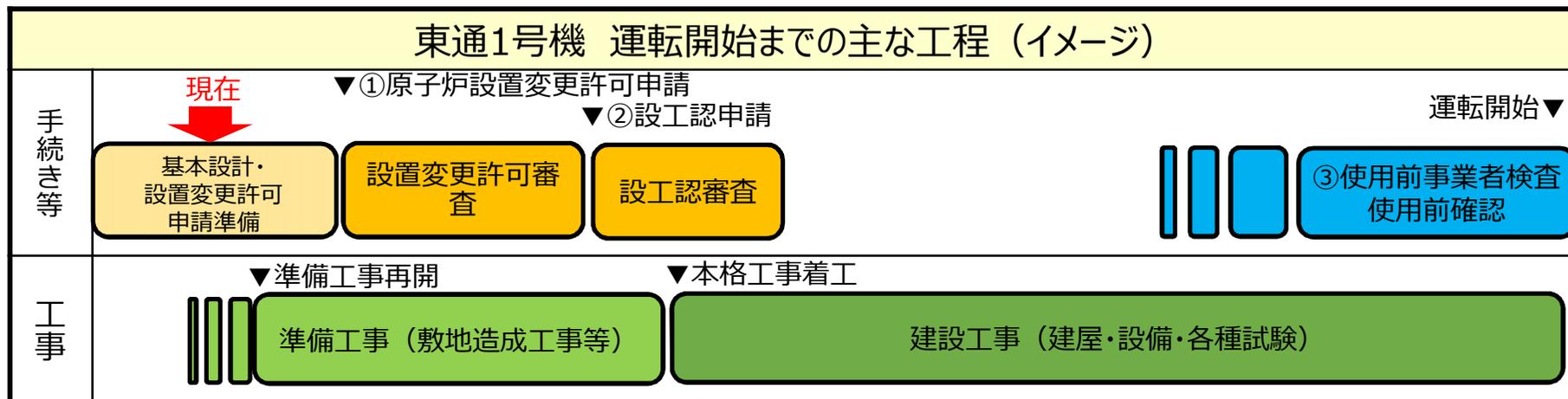
\* 2025年度供給計画より

# <参考> 発電所建設エリア現場状況



## 1-1. 東通1号機 運転開始までの主な工程

- 新規基準で強化・新設された安全対策を織り込んで設計検討を進め、国の許認可手続きを順次実施
  - ① 原子炉設置変更許可申請
  - ② 設計および工事計画認可（設工認）申請 → （1回目）認可後、本格工事着工
  - ③ 使用前事業者検査、国による使用前確認（系統試験・起動試験含む）
- このほか、保安規定、核物質防護規定なども順次申請・認可



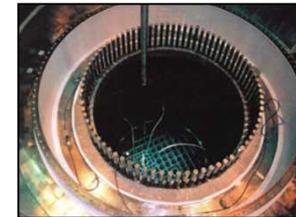
岩盤検査



中央マット完成



原子炉圧力容器据付



燃料装荷

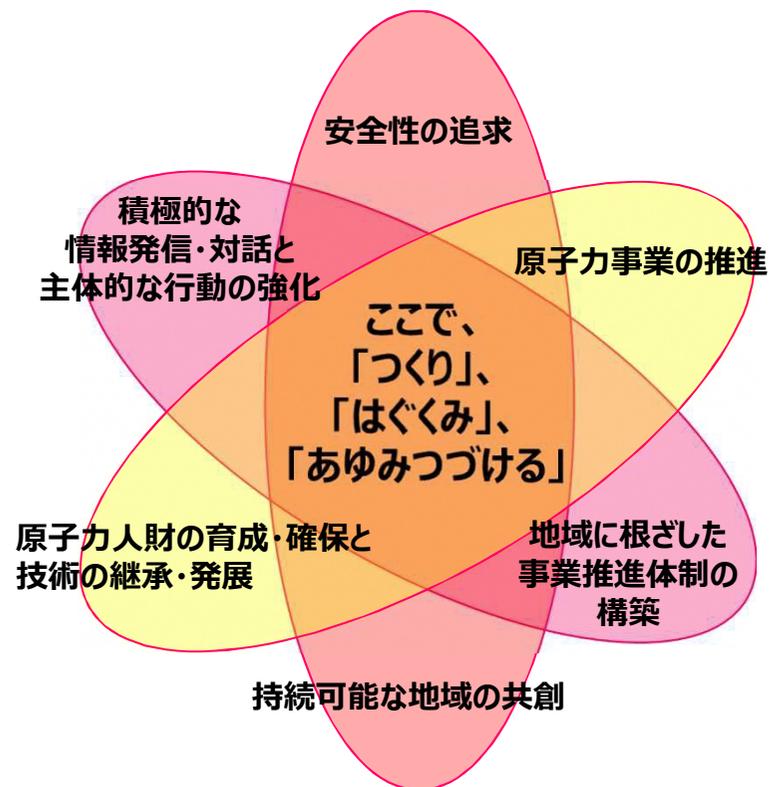
## 2. 青森行動計画

当社は、2019年3月、地域に根差して原子力事業を進めていく基本姿勢を「青森行動計画」としてとりまとめ、同年7月には、それを具体化するため、「青森事業本部」を設置しました。

私たちは、青森行動計画の基本コンセプトである  
**ここで、「つくり」「はぐくみ」「あゆみつづける」を基本に、  
 6つの基本方針のもと日々取り組んでいます。**

### ■ 6つの基本方針

1. 安全性の追求
2. 原子力事業の推進
3. 地域に根ざした事業推進体制の構築
4. 持続可能な地域の共創
5. 原子力人財の育成・確保と技術の継承・発展
6. 積極的な情報発信・対話と主体的な行動の強化



## 2-1. 安全性の追求／原子力事業の推進（1/2）

一日も早い建設再開に向けて新規制基準の申請準備を進めています。  
そうした中で、福島第一原子力発電所の教訓、新規制基準の要求事項、最新の知見などをあらかじめ織り込んだ世界最高水準の安全性を誇る原子力発電所の設計を行うため、日々検討を重ねています。引き続き全力で設計検討等の諸準備を進め、少しでも早く見通しを提示してまいります。

### <主な周辺整備作業について>

- 2011年の福島第一原子力発電所事故以降、建設工事を見合わせていますが、建設作業エリアの造成や管理用道路の整備等の周辺整備作業を継続実施しています。



建設作業エリアの造成



管理用道路の整備



港湾設備の維持補修

## 2-1. 安全性の追求／原子力事業の推進（2/2）

新規制基準への適合のみならず、最新知見も踏まえ、より安全性に優れたプラントの設計等に必要な材料を収集するべく調査を実施中

### <ボーリングによる地質および地質構造の調査>

- 敷地の地質および地質構造を把握するため、2018年8月から敷地高台エリアを中心に地下のボーリング調査を実施中

### <試掘坑による地質および地質構造の調査>

- 敷地の地質および地質構造を把握するため、2019年1月から立坑・横坑掘削工事を開始し、2019年8月から調査を実施中

### <大深度地震観測>

- 地下深くからの地震の揺れ方の特性を把握するため、これまで敷地内で実施してきた地震観測に加えて地下深く（約2,500m）に調査用地震計を設置し、観測を継続中



ボーリング調査



試掘坑調査



試掘坑内部



試掘坑内部

これまで実施してきた地質調査や他社の国による審査状況等を踏まえて、安全性を確保したうえで建設を円滑に進める観点から、建設エリア内における建物、設備等の配置計画の変更も検討しており、現在、詳細を詰めているところです。引き続き設計検討等の諸準備を進め、少しでも早く建設の見通しを提示してまいります。